

大果で食味がよい施設栽培向きビワ新品种「はるたより」

施設栽培の主要品種である「長崎早生」より大果、良食味で果皮障害が少なく日持ち性のよいビワ新品种を育成

研究開発の背景

- ・施設ビワにおける栽培品種は「長崎早生」に偏っている。
- ・ビワは収穫・調製に労力が集中するため、単一品種による栽培形態では規模拡大ができない。
- ・「長崎早生」は果実が小さく、成熟期の高温により果皮障害が発生しやすい。

研究成果の内容

規模拡大を可能とする大果・良食味で外観・日持ちも良好な施設栽培向き新品种

[ハウス栽培：H20～H22の平均]

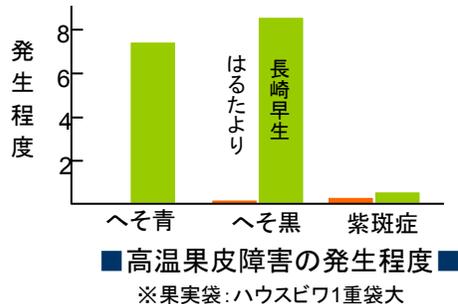
品種名	熟期	果実重	果肉硬度	糖度	食味
はるたより	4月19日	56.5g	やや軟～中	13.2%	良好
長崎早生	4月12日	44.6g	中	12.5%	やや良好

「長崎早生」より1.3倍大果
上:「はるたより」 下:「長崎早生」

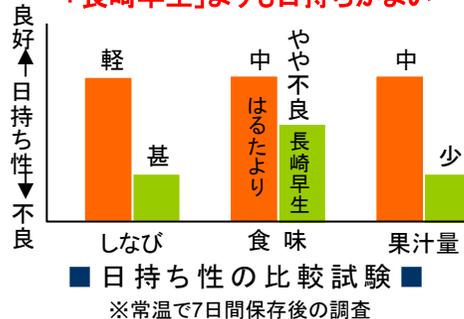
「長崎早生」と「茂木」の間に成熟

果肉が軟らかく高糖度で食味がよい

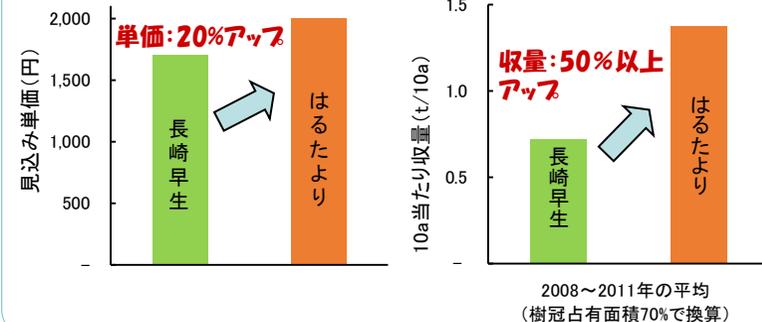
「長崎早生」で多い果皮障害が少ない



「長崎早生」よりも日持ちがよい



導入メリット



期待される効果

- ・大果、良食味、豊産性、労力分散により、ビワ生産者の経営安定に寄与。
- ・食味のよい果実を消費者に供給することによるビワ需要の拡大。

開発機関：長崎県農林技術開発センター 【予算区分：競争的資金】

導入をオススメする対象
西南暖地のビワ栽培農家(特に施設栽培)